

資料・標本を研究する大学博物館の裏側を  
のぞいてみませんか？

# Hands On

東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究発信グループ共同活動  
共催：東京大学大学院理学系研究科附属植物園

## 「学術資料・標本をつくるハンズオン・ギャラリー」

2013年7月27日(土)／総合研究博物館

第1回「発掘のあとに：化石・石器・土器を洗浄・拓本・撮影する」

講師：椎野勇太・佐野勝宏・鶴見英成・石井龍太

2013年8月3日(土)／理学系研究科附属植物園(午前)、総合研究博物館(午後)

第2回「採集のあとに：植物・昆虫を標本にする」

講師：矢後勝也・高山浩司・尾崎大真

2013年8月4日(日)／総合研究博物館

第3回「解剖のあとに：動物を骨格標本にする」

講師：小薮大輔・服部創紀・久保麦野・黒木真理

本郷会場／東京大学総合研究博物館

東京都文京区本郷7-3-1(東京大学本郷キャンパス内)

小石川会場／東京大学大学院理学系研究科附属植物園

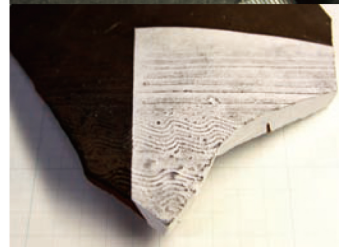
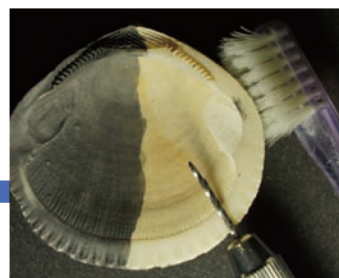
東京都文京区白山3-7-1

各回とも10:00～16:00(お昼休憩12:00～13:30)

※応募要項は裏面をご覧ください。

実施機関／東京大学総合研究博物館、東京大学大学院理学系研究科附属植物園

Supported by 新日鉄興和不動産株式会社



# Hands On ハンズオン

## ●応募要項

定員は各日10組程度(小学生は保護者同伴のこと)。  
先着順にご案内します。  
電話にて①参加希望日、②氏名(ふりがな)、③年齢、  
④郵便番号・住所、⑤電話番号をお知らせください。

応募および問い合わせ先

〒113-0033 文京区本郷7-3-1

東京大学総合研究博物館事務室

TEL: 03-5841-2803 / FAX: 03-5841-8451

<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

発掘した遺物や採集した生物は、「資料・標本」のかたちとなってはじめて研究に使われる。資料や標本になる過程は、研究の分野や方法によって異なる。そこには、研究者の独創的なアイデアによって施されるさまざまな職人技や熱き情熱が込められている。

研究活動と保存機能を両立させた大学博物館は、常にモノと向き合い、その個性を最大限に引き出せるような工夫をこらしている。会場で用意した3つの企画は、発掘・採集・解剖のあとに、モノの学術面を浮き彫りにすることを目的とした。生物や化石、考古遺物を学術資料・標本へと変身させる専門的な作業を体験していただきたい。

2013年7月27日(土)／総合研究博物館

### 第1回「発掘のあとに：化石・石器・土器を洗浄・拓本・撮影する」

「古生物学」と「考古学」、両者は似て非なるものだ。「化石」と「石器・土器」というそれぞれの発掘品を洗い、細部を写し取り、拡大写真を撮ることで、両者の性格の違いと先端研究に必要な基礎データが構築されていく過程を体験する。

講師：椎野勇太・佐野勝宏・鶴見英成・石井龍太

2013年8月3日(土)／理学系研究科附属植物園(午前)、総合研究博物館(午後)

### 第2回「採集のあとに：植物・昆虫を標本にする」

昆虫や植物を野外で見つけて採集し、博物館で標本の作成を行う。また、棒状にくりぬいた樹木の幹の一部を研磨し、年輪を観察する。一連の手作業を通じて、生物に学術標本としての新たな価値が生み出される過程を体験する。

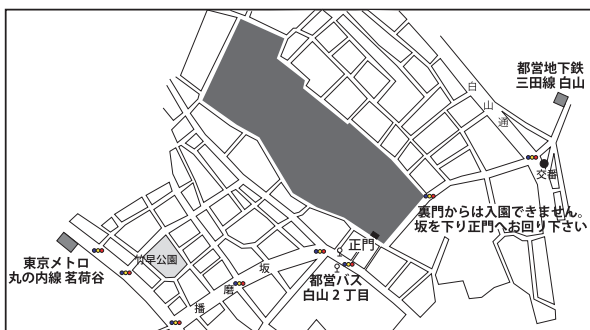
講師：矢後勝也・高山浩司・尾崎大真

2013年8月4日(日)／総合研究博物館

### 第3回「解剖のあとに：動物を骨格標本にする」

動物の遺体は生物の謎を解くために不可欠なものである。後世に標本を残し、研究や教育に標本を活用するために動物の遺体を骨格標本化して、未来永劫保管できるかたちにしてあげる必要がある。本企画ではふだん博物館で行っている骨格標本作りを体験する。

講師：小藪大輔・服部創紀・久保麦野・黒木真理



理学系研究科附属植物園

